平成 27 年

# 11 月の普及活動状況

**ダイジェスト版**

**～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～**

**岐阜県農政部農業経営課**

# 平成２７年１１月の普及活動状況ダイジェスト版

## 活力ある新産地づくり

**下呂農林■スイトコーン　愛称を選定**

11月12日（木）、下呂市スイートコーン研究会は第３回の役員会（地区リーダー会議、審査委員会）を開催し、スイートコーンの愛称の選定、来年度の取組方針などの協議を行った。

今回選定した愛称候補は、12月中旬の第９回研究会にて決定される予定であり、来年7月の収穫開始と同時にイベントで広く市内外へＰＲし、認知度向上を図っていく計画である。

【選定の様子】

## 売れる農畜産物づくり

**西濃農林■トマト　各トマト生産組織で研修会開催**

トマトの各生産組織で研修会が開催され、厳寒期にむけての栽培管理について説明を行った。特に、灰色かび病の対策として、薬剤散布の他に、ハウス内の環境（温湿度、日射量、風通し、炭酸ガス濃度）を良好にすることにより病気発生を抑制するとともに光合成の適正域にすることで生育もより促進されること等を説明した。

【養液栽培研究会の様子】

また、海津トマト部会では、11 月 9 日に第 1 回養液栽培（ポット耕）研究会を就農支援センターの協力の下に開催し、20 名程度の参加があった。その日は就農支援センターハウスの生育を見学した後、就農支援センターからポット耕の概要と給液方法について説明を受けた。さらに、就農支援センター第一期生から現状の生育や栽培管理の課題等について報告があった。数人の生産者からポット耕に対する質問があり、有意義な研修会となった。同部会では第２回養液栽培研修会の開催を検討している。

**揖斐農林■茶　第６８回関西茶業振興大会岐阜県大会を開催**

11 月 15 日（日）、揖斐川町地域交流センターにおいて、大会式典及び茶の消費拡大イベントが盛大に行われた。品評会褒賞授与式では、揖斐川町が煎茶の部で「産地賞」の表彰を受け、優勝旗を手にした。特別表彰として同じく煎茶の部で(農)桂茶生産組合 太田恒雄氏が「農林水産大臣賞」の表彰を受けた。このほか揖斐管内の生産者が、1 等特別賞 6 点、2 等 4 点、3 等 4 点を獲得した。

式典には次代へ繋ぐ茶業と文化をテーマに地元小学生による茶の研究発表、三世代による大会宣言決議、清流の国ぎふのＰＲが盛り込まれた。会場周辺、併設開催された「いびがわ産業フェスティバル」内では品評会茶の展示、入賞茶を味わえる喫茶店、地元高校生による抹茶の呈茶、利き茶クイズ大会、カップティー作り体験等が行われ、参加者、一般消費者から好評を得た。

農業普及課は、開催地としての存在感を発揮し、全国に向けて高品質な「美濃いび茶」を発信するため、開催の２年前から生産者、関係機関と一体となった重点的な取り組みを推進してきた。今後はこれまでの取り組みと産地の団結を、茶のブランド化、産地の活性化に繋げていきたいと考えている。

【産地賞の授与(揖斐川町:左)】

【地元高校生による呈茶】

**郡上農林■いちご　クラウン加温実用性試験を開始**

【株元に電熱線を設置】

平成 26 年度に新規就農した冬春イチゴ生産者が低コスト化を目的とした電熱線クラウン局所加温法に取り組んでいる。ハウスがある美並町は平坦地より冬の寒さが厳しいため、農業普及課では、県の新技術導入普及支援事業を活用し、生産者と一体となって実用性を検証している。

11 月 19 日（木）に生産者とともに株元に電熱線を設置した後、11 月下旬頃から加温を開始し、局所加温が生育や収量に及ぼす影響を調査していく。

今後、新たな技術の現地に合わせた普及を進めるとともに、新規就農者の経営が軌道に乗ることで、郡上初の冬春イチゴのモデルとなれるよう、関係機関と連携した多面的な支援を継続していく。

**可茂農林■いちご　いよいよ出荷開始～出荷目揃会を実施～**

【出荷目揃会の様子】

可茂いちご生産組合協議会では11月24日（火）、ＪＡみのかも農業サポートセンターにて出荷目揃会を行った。富加町の「濃姫」は11月16日から出荷が始まり、また美濃加茂市、川辺町などで栽培される「紅ほっぺ」も夜冷育苗による生産者は10月下旬から出荷を始めており、他の生産者も11月下旬から順次出荷が始まる見込みである。

目揃会では全農岐阜県本部や市場担当者から出荷規格の説明を受け、その後生産者同士で選別の目揃いを行った。品質管理の徹底で、産地の信頼を強化することが確認された。

また、目揃会の前には、美濃加茂市の「紅ほっぺ」生産者、富加町の「濃姫」生産者の栽培ハウスで現地研修を行った。栽培管理状況の説明を受けた後、生育状況や栽培管理の工夫などについて意見交換が行われた。普段、他の生産者の栽培状況を見る機会が少ないことから、熱心に質疑が行われ、技術交換を行うことができた。

農業普及課からは、気象状況に合わせた栽培管理について情報提供を行い、安定生産・安定出荷に向けた支援を行った。

## 戦略的な流通・販売

**岐阜農林■えだまめ、いちご等　ＧＡＰアドバイザー派遣講座を開催**

【ＧＡＰ派遣講座の様子】

11月17日（火）、農産園芸課主催のＧＡＰアドバイザー派遣講座が開催され、既に独自ＧＡＰに取り組んでいる岐阜市園芸振興会のいちご、えだまめ、ほうれんそう、だいこん部会の生産者など21名と関係者14名が参加した。

一般社団法人日本生産者ＧＡＰ協会の田上事務局長から、日本ＧＡＰ規範に基づく農場評価制度について、作業場でのヒヤリング方法の演習と、農場評価結果を踏まえたリスク評価の方法、視点や改善計画の作成などについて説明があった。今回の調査農家での農場評価結果は、615点とまずまずであったが、直ちに改善すべき事項が複数あり、これらをまず改善して欲しいとの指導があった。

農業普及課では、ＧＡＰの取り組みをステップアップさせるため、この派遣講座の開催を生産者に周知するとととともに、受講するよう働きかけるなど支援を行った。

今後は、本年度の現地調査結果を踏まえ、現地調査方法の改善や評価基準の見直しなどを提案し、一層ＧＡＰの取り組みを加速させる予定である。

**恵那農林■トマト、なす　ＪＡ選果場職員に対するＧＡＰ推進講習会を開催～**

東美濃夏秋トマト生産協議会及び夏秋なす生産協議会では、生産工程管理の適正化と信頼される農産物づくりのため、平成２１年度から「ひがしみのＧＡＰ」に取り組んでいる。

昨年度から生産者と選果場に対する内部監査に加え、共同選果場の職員に講習会を開催しており、農業普及課は衛生管理や異物混入防止等の説明、対策等の助言等を行い、関係者のＧＡＰに対する意識向上を図っている。

今後、各地区の内部監査結果を受け、現状の問題点の摘出と課題解決を図り、より信頼されるＧＡＰの取り組み支援を継続する。

【講習会の様子】

**農業経営課■飛騨牛　肥育農家に喜ばれる子牛づくり研修会を開催**

11 月 20 日（金）、岐阜県家畜人工授精師協会東濃支部は恵那総合庁舎で「肥育農家に喜ばれる子牛づくり」と題した研修会を開催し、家畜人工授精師、和牛繁殖農家、関係団体職員等約 20 名が参加した。

農業経営課の農業革新支援専門員が最近開発された肺炎予防ワクチンの特徴や飼料給与・寄生虫対策等に関する講演を行った後、活発な意見交換が行われた。全国的な和牛繁殖農家の減少により和牛子牛価格が過去最高水準となる一方、飛騨牛の枝肉価格は過去最高水準で推移しており、牛の肺炎や下痢が農家の経営悪化に直結することから肥育農家はより健康で飼いやすい子牛を求めている。
今後も飛騨牛の品質向上をめざして県内各地で同様の研修会を開催する計画としている。

【家畜人工授精師研修会】

## 多様な担い手育成・確保

**飛騨農林■担い手　就農に向けてパワーアップ！！**

飛騨地域農業再生協議会（人・農地プロジェクト）では、次年度以降に飛騨及び下呂管内で就農予定の長期研修生及び研修予定者 34 名を対象に「就農準備研修会」を開催している。この研修会は、昨年度までは当所農業普及課が主催し、管内の長期研修者等を対象に実施してきたが、飛騨地域トマト研修所研修生や下呂地域の長期研修生等を含め、広域で、かつ内容を拡充するため、主催者を地域農業再生協議会として開催することとしたものである。

初回の11月４日（水）、中山間農業研究所野川所長から「飛騨農業の歴史と気象」、「試験研究の取り組み」について、また２回目（11月11日（水））は、ＪＡひだ農機センター長を講師に「安全な農業機械操作・メンテナンス」、３回目（11月18日（水））は、下呂地区指導農業士会朽本会長の講話、当所の浅野技術主査及び長瀬技師による「県内におけるぎふクリーン農業の実践状況及び法令に基づく農産物の表示制度」、下呂農林事務所田口係長による「ＧＡＰとは」をテーマに講義を行った。今後も毎週水曜日に全13回開催する予定である。

農業普及課では研修会の企画と運営を主体的に担当し、外部講師、市や農協の協力を得ながら、労務管理、土壌診断、病害虫対策、農産物流通、植物の生理生態、ハウスの建て方等、就農に必要な知識を習得するための研修開催を支援していく。

【自己紹介する研修生】

## 県民みんなで育む農業・農村

**揖斐農林■柿　大野北小学校との給食交流会を開催　～柿加工品を使ったメニューの提供～**

大野町特産の柿を使った加工品を開発しようとプロジェクトチームを組織し、ピューレやパウダー、チップなどの一次加工品の活用を検討してきた。今回、大野町ならではの学校給食メニューを子供達へ提供しようと大野町給食センターへ働きかけ、栄養士の協力のもと柿チップを練り込んだパンが10月26日の「柿の日」に給食メニューとして登場した。

農業普及課では、この活動を生産者に知ってもらうとともに地域の子供たちに柿への理解を深めようと、給食を通じて柿づくりの指導等で交流のある大野北小学校３年生と柿生産者の交流機会を設けた。柿産地を支える担い手が一人でも増えてくれることを期待している。

【柿の日給食交流会の様子】

**中濃農林■女性農業経営アドバイザー　ＧＬＡＭＡによる視察研修会を開催**

11 月 5 日（木）、県内の女性農業経営アドバイザーがつくる「ＧＬＡＭＡいきいきネットワーク」の視察研修会が美濃市と関市で行われ、会員や関係者など約 90 名が参加した。

午前の部では、「今後のＧＬＡＭＡの活動のあり方」について 10 グループに分かれて意見を交わし議論した。会員からは「自分たちの活動を広く知ってもらい、会員を増やしたい。」「食育活動に取り組んでいきたい。」など意見が出され、より充実した活動をしていくための話し合いができた。

地元食材を使った昼食会を挟んで、午後の部では関市内でほうれんそうを栽培している「まことファーム」とＪＡめぐみのファーマーズマーケット「とれったひろば関店」を視察した。

農業普及課では、研修会の企画から当日の運営について支援した。

【熱心に検討する会員】

**東濃農林■土岐市地産地消推進協議会　設立総会を開催**

11 月 11 日に土岐市の地産地消の推進を図ることを目的に、土岐市地産地消推進協議会が設立された。

これまで、土岐市内には大型の農産物直売所はないものの、各所には古くからの朝市があり、また南部の濃南地区では近年若い農業者が新たに農業経営を開始し、地元スーパーや学校給食センターへの出荷販売が行われているが、以前より土岐市内には生産者組織がなく、生産者同士が連携を図る機会がなかったため、生産者からも組織設立の要望があり、関係機関も含めて組織づくりについて検討を行ってきた。

新たに設立した協議会には、担い手農家８名及び朝市３組織が加入し、今後生産者間の情報共有による連携と生産技術の向上のための研修会等の事業を行っていく予定である。

農業普及課では、引き続き地産地消の推進と設立された組織運営について支援していく。

【設立総会の様子】